

令和7年度 第3回蓮田市高齢者福祉計画等策定委員会

・日時：令和8年3月25日（水）午後1時から

・場所：蓮田市役所304・305会議室

・出席委員

深田康孝、藤本鎮也、多々良彰、小倉徳之、水品順子、田辺雅治、萩原建作、平賀栄美子、阿部ミチヨ

・出席職員（事務局）

健康福祉部 森上部長

長寿支援課 鈴木課長、中地副主幹、古賀副主幹、大熊副主幹、福森主査、金子主任、田中主任

・その他の出席者

株式会社名豊 政策2課 池上課長

・傍聴者 なし

・会議内容

1 開会…鈴木課長

2 あいさつ…藤本委員長、森上部長

3 議題

(1)「蓮田市高齢者福祉計画 2027・第10期介護保険事業計画・認知症施策推進計画策定のためのアンケート調査等結果報告書」について

○「蓮田市高齢者福祉計画 2027・第10期介護保険事業計画・認知症施策推進計画策定のためのアンケート調査等結果報告書」について、事務局から説明を行った。

【アンケートの回収率の向上について】

委員：前回に比べてだいぶ回収率が上がっていると思うが、何か工夫したことはあるのか。

事務局：アンケートを提出されていない方に、途中で再勧奨はがきを出した。また、初めてWebでの回答を受け付けた。

【エンディングノートについて】

委員：エンディングノートを記入したことがある割合が12.7%で少ないという印象がある。エンディングノート事業というのは現在どのように進められているのか。

事務局：3ヶ所ある地域包括支援センターの窓口で、希望の方に説明をしながら配布をしている。その他、地域講座で説明をしながら配布をしているが、引き続き周知するとともに活用の支援も併せて行っていく必要があると考えている。

【居住地区について】

委員：お住いの地区の設問で、無回答が4年度よりも大幅に増加しているが、その原因はわかるか。

事務局：事務局の推測となるが、個人情報を知られたくないという方が多くなっているのではないかと考える。

【居住地区の特定について】

委員：今回のアンケートでは、住所等を特定することはできなかったのか。

事務局：今回の調査では、個人を特定しないこととなっているため、行っていない。

【機能別リスク該当者割合の分析 低栄養の傾向について】

委員：低栄養の傾向について、年齢の階級別で見ると、女性がだんだん低栄養の方が増えていくというのはわかるが、85歳になると急に0%になる。要因はわかるか。

事務局：低栄養の平均自体が1.3%で元々低い結果となっており、80歳代女性は回答された方がいなかったということで0.0%となっていると考える。

【居宅介護支援事業所として蓮田市に望むことについて】

委員：蓮田市に望むことについて、「適切な情報提供」が5割以上となっている。市としてどのような情報提供をしているか教えてほしい。

事務局：国や県からの最新の情報については、自治体である市にメールや文章で届くので、事業所に対して周知を行っている。また、ケアマネ連絡会などでも周知を図っている。国の制度も変わってきており、早く最新情報をキャッチしたいので、早めに周知をして欲しいという思いが反映されていると考える。

【地域包括支援センターと居宅介護支援事業所との連携について】

委員：地域包括支援センターの認知度は上がってきているが、介護保険サービス提供事業所や居宅介護支援事業所のアンケート結果では、令和4年度と比べて連携が取れていない、相談することが減っている傾向が見える。今後、連携を強めていくべきと思っているが、どのように考えているか。

事務局：市民に対する認知度は、以前は低めだったので、この3年間、力を入れてきた。介護保険サービス提供事業所や居宅介護支援事業所に対しては、ケアマネ連絡会などで連携を強めてきたところであるが、あまり図れてなかったということはこの結果をもって認識した。今後、積極的に各事業所とも連携を図っていきたい。

また、各事業所自体に力がついてきたということの裏返しなのかと考えている。法改正があり、居宅介護支援事業所に主任ケアマネジャーを必ず置かなければならないこととなった。個々の事業所に力がつくように制度改正が行われ、地域包括支援センターに頼らなくても、相談しなくても対応ができる力がついてきたのではと思っている。

【処遇改善のための環境整備の推進について】

委員：P102、P130の「今後蓮田市に望むこと」の問いについて、「処遇の向上のための環境整

備の推進」の割合が高くなっている。こういった推進を考えているか。

事務局：県から処遇改善等の最新情報を受けて、事業所に周知するとともに、その内容等についての相談を受けていくことで、処遇の向上の推進となると考える。

【機能別リスク該当者割合の分析 閉じこもり傾向について】

委員：閉じこもり傾向について、85歳以上の男性は13.6%、女性が40.4%と女性が高いが、その原因は何が考えられるか。

事務局：アンケートではその要因までは聞いていないので、原因を把握することは難しいが、女性では80～84歳から85歳以上の間で一気に上がっているが、運動器と関連するところでもあるため、年齢が上がってくるにつれて、閉じこもりリスクも高くなっていると考えられる。

委員：閉じこもり傾向が全体平均12.7%であるが、やはり年齢が高くなると運動機能も低下していくと思うが、行政としては何か考えはあるか。

事務局：運動器の機能低下や閉じこもり、転倒なども年齢が上がるとリスクも上がっている。高齢者に何らかの対策をとということで、国が令和4年以前から75歳以上の方にも、フレイルや介護予防、生活習慣病予防の対策をするように求めており、蓮田市としては高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施という事業を実施している。

委員：85歳以上の女性の閉じこもりは、女性の寿命が長く、男性の寿命が短いこととの関係はあるか。

事務局：85歳以上の人口は、寿命の関係で女性の方が多いことも関係してくると考えられる。また、県内の統計が毎年出ており、蓮田市は男性の健康寿命がかなり上位に入っている。逆に女性は集まって喋りするのは良いことではあるが、おそらく飲んだり食ったりしており、ウエイトも増える、膝も痛くなるということも、よく地域包括支援センターに相談にくると聞いている。

【認知症に関するヒアリング調査について】

委員：ご本人とご家族でこういった項目で一番乖離があったか。

事務局：ご本人は住み慣れた地域で今までの関係性を続けていきたい、それにサポートが欲しいという気持ちをお持ちの方が多いが、その一方で支えるご家族のご負担等、ヒアリング調査で結構出てきた。ご本人は住み慣れた地域で暮らしたい一方で、そのためには介護者の確保も必要なので、そのバランスが難しいことが伺えた。

委員：質問ではないが、認知症の人を介護する家族の集いとか認知症カフェ10名のうち9名が参加していることは、本当に素晴らしく充実していただきたいと思う。

(2) 今後のスケジュールについて

○今後のスケジュールについて、事務局から説明を行った。

4 その他

委員：令和7年度のアンケートの集計において、作業をされた延べ人数は何人で、どれくらい

の人的、時間的負担があったのか。

事務局：延べ人数までは把握ができてないが、一番時間を要したのは入力の部分である。今回 Web 回答を導入したことにより、若干負担は減ったと思う。

5 閉会…水品副委員長